

## 松阪の尾鍋組 知財功労賞

### 市長に報告 地盤改良工法 全国に普及



竹上市長に受賞を報告する尾鍋社長(右)

住宅の地盤改良工法を独自に開発、全国に普及を図る松阪市飯高町の土建会社尾鍋組が、2021年度の「知財功労賞」(特許庁長官賞)を受賞した。尾鍋哲也社長(59)が20日、竹上真人松阪市長に受賞を報告した。

地中に円柱状に碎石を埋め込み地盤を強化する工法で、従来工法で用いられるセメントや鋼管に比べて二酸化炭素(CO<sub>2</sub>)排出量が100分の1と少なく、環境に優しいのが特徴。碎石以外の固形物が地中に残らないため土地の再利用が容易で、資産価値が下がりにくいという利点もある。

同社は社員14人の中小企業。尾鍋社長が三重大学などの協力を得て、2003年から4年がかりで開発した。施工方法、施工データのクラウド管理などについて6件の特許を取得したうえ、「エコジオ工法」と名付けて代理店を通じて全国展開を図り、これまでに全国3000を超すハウスメ

ンカーが採用、施工実績はすでに2万件を超えた。知的財産権を活用した経営手法が評価された受賞に、尾鍋社長は「身に余る賞。これからも持続可能な社会に貢献できる技術として広めていきたい」と喜びを語った。